



## 添削の話

月曜日の通信に、「受験計画表」を実際に記入することから具体的な準備を始めようという話を書いたが、受験計画表を完成させながら受験する大学を最終的に決めたら、その大学・学部の過去問に目を通すことになる。

まずは第一志望の大学・学部の過去問を演習することになるが、国公立の場合、また私大の場合でも記述式の問題（小論文など）が課される大学を受験する場合は、添削指導をお願いすることになり、もうスタートすべき時期である。私の場合を例に、具体的なやり方などを、(1) 小論文、(2) 記述式問題に分けて説明してみよう。

まず、小論文の場合だが、添削用のノート（見開きで400字になるジャポニカ学習帳みたいなもの）を用意してもらっている。というのも、原稿用紙を使うと添削した結果が散逸してしまうが、ノートにしておく、添削した記録が残るので、どのようなところが毎回直されているのかといった記録が残り、自分の欠点が見つけやすくなるからである。また、新しい問題に取り組む前に、前回の答案をサッと見直して、注意点を自分なりに確認してからはじめるといったこともできるに違いない。さらに、実際の入試際、直前にそのノートを読み返してみると、自分の苦勞の跡も分かるし、先生方の励ましの言葉も思い出されて、落ちつくことができるだろうと想像されるからである。

初回に書いてもらう時は、時間は気にせず字数を守るようにアドバイスする。ただし、書き終わった時間をメモしてもらって、例えば15分オーバーだったら、次に書く時は10分オーバー以内に縮めるようにといった目標

値を設定する。こうして、何回か練習するうちに、時間内に書き上げる感覚を身につけてもらうのである。

小論文の場合は、時間内に、定められた字数を書き上げることが大切だ。その感覚がしっかりつかめるまで練習しよう。最低5回くらいは書きたいところである。

次に、国公立の記述式問題の添削だが、河合塾のカリスマ講師が「やっても伸びない方法」として、①次から次へと数多く問題をこなす ②解答を書いたらすぐに模範解答と見比べる ③解答を誰かに真っ赤に添削してもらおうと述べている。理由は、「自分の頭で解答を組み立てるプロセスを重視することなしには、絶対に上達しない」、「いったん解答を完成させてしまった後になって、いくらジタバタしてもムダ」とおっしゃっているが、私ももっとだと思ふ。

そこで、その「解答を組み立てるプロセス」を理解してもらうことから始める。具体的には、そのプロセスが丁寧に解説されている問題集を推薦し、解き進めてもらいながら困ったことや理解しにくいことがあれば相談に応じる形で、まずは解答を組み立てる基本を身につけてもらう。ちなみに、私は今年東大の添削担当なのだが、東大に関しては「

」( )、  
2018) を推薦する。これを自分なりに2～3周やって、理解できたと思ったら、さらに過去問の添削へと入ってゆくのである。

以上は私のやり方だが、担当の先生方にはそれぞれ得意の指導法がある。信頼し、会話を重ねながら、着実に力を伸ばしてほしい。